

[シンポジウム] 未来へつなぐ保健・医療・福祉・スポーツ分野のシミュレーション連携教育

〈シンポジスト1〉

理学療法学科におけるOSCE（客観的臨床能力試験）の取り組み

新潟医療福祉大学医療技術学部理学療法学科

助教 高橋 英明



理学療法の臨床現場では、同時に多くのことを実践する必要があります。例えば、患者さんに対して「今、何が問題点であるのかを把握できる能力」、「その問題点に対し適切かつ迅速に行動できる能力」が求められます。後者においては、医療介入技術のみ

ならず接遇面やリスク管理、時間管理なども修得する必要があります。そこで、本学科では10年ほど前よりOSCE（Objective Structured Clinical Examination）を導入し、臨床実習に行く前にこれらの総合力を確認しています。OSCEとは、「客観的臨床能力試験」とも言われ、模擬患者（SP：Simulated Patient）を通じ、臨床技能の修得が十分であるかを客観的に評価するものです。

本学科では、2・3・4年次にそれぞれ臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲがあります。それぞれの実習では求められる到達目標が異なるため、OSCEもそれらに対応する形で実施しています。臨床実習Ⅰでは、医療面接を通じ必要な情報を収集したり、検査測定技術の一部を患者さんに実践します。臨床実習ⅠのOSCEでは、北区在住の方にSP役を依頼し、実際の医療面接場面を想定して行います。実施中は、面接のやり取りを他の学生も観察し、互いにコメントしたり参考にしたりして改善を図ります。

次に、臨床実習Ⅱでは、患者さんに必要な評価や検査測定を自ら導き出し、その結果の因果関係からアプローチすべき問題点を明らかにし、治療プログラムの立案までを行います。臨床実習Ⅱにおける評価OSCEでは、同様の北区在住のSP役に対し検査測定を実践し、教員による客観的評価を経てから実習に臨みます。

臨床実習Ⅲでは、医療面接・検査測定・治療介入・介

入後の効果検証までの全てを行います。ここでの実習前総合OSCEでは、転倒リスクなどのある患者さんを想定する必要がありますので、実際の患者さんに近い動きを模倣できる、臨床現場で働く理学療法士の先生方にSP役を行ってもらうのが特徴です。いずれのOSCEにおいても、技術、接遇、リスク管理および時間管理面に関して教員およびSPが客観的に評価を行います。

上記の取り組みによって、「問題点に対し適切かつ迅速に行動できる能力」を有しているかを判断するのに一定の効果がありました。一方、「今、何が問題であるのかを把握できる能力」に関しては、不十分でした。そこで、臨床実習Ⅰでは、平成29年度から問題把握能力向上を目指し、症例検討会を実施しました。具体的には、実在する患者さんの医学的情報や歩行動画などを用い、グループワークを通じて思考過程の明示化を試みました。実施後の学生アンケート結果では、一定の効果があることがわかりました。以上のことから、行動に移す前の頭の中のシミュレーション教育は、論理的思考の成熟にも役立つと思いますので、双方からのアプローチを今後は行っていきたいと思っています。

